

## 演題 「小学校に入る前に…」

講師 相模小学校校長 會 田 昭 広

平成 25 年 2 月 14 日(木) ゆりかご幼稚園にて

現在の状況から…「小1プロブレム」

- ・以前は入学後 1 ~ 2 週間落ち着いて学校生活を送れるようになっていたものが、夏休みを過ぎて学級が落ち着かず、学習に集中できない
  - ・席につけない、話が聞けない、ちょっとしたことでトラブルを起こすという状況が続く  
なぜだろうか？ —— 原因としてあげられること
  - ・乳児期にスキンシップがとれていなかったのではないか
  - ・幼児期、他の子とのかかわるためのルールが身につけていないのではないか
- そこで、学校生活を楽しむために「小学校に入るまでにできてほしいこと」…

ルール(社会)をしっかり教える役割として、父親の存在が大きい

### 1. 早寝・早起き・朝ごはん

早寝：小学校低学年なら 9 時前（高学年でも 9 時半）

早起き：起こさなくても 6 時には起きてくる

朝ごはん：「おなかすいた」と起きてくる

休みの日こそ大切：休みの日に狂うと、週明けの学校で勉強に身が入りません

基本の生活リズムができていない子の例

- ・昼夜逆転した生活を送り、不登校になってしまった。  
深夜までゲーム 朝起きれない、朝食抜き 学校で眠くなり学習できない、つまらない給食の後からようやく元気になる 帰宅後ゲーム 夜冴えて深夜までゲーム → 悪循環

乳幼児期は生涯につながる生活リズムがつくられる時。大人の責任ですね。

### 2. しつけの3原則

へんじ

あいさつ(ありがとう、ごめんなさいも含む)

くつをそろえてぬぐ(整理整頓の第一歩)

「言われなくてもできる」まで、  
教え続けましょう

あいさつ…「家では言ってますか？」地域の人にもあいさつ。目と目を合わせてあいさつ。

### 3. お手伝い

自分から進んでお手伝いができる

自分のことは自分でやる習慣がついている

家族の中で、自分の役割分担がわかる

お手伝いは 1 歳半でやり始められる 「言ってもやらないのは危険信号」

- ・“親にしてあげている”という気持ちでやるのではなく、家族の一員としての役割。
- ・手伝いはかえって手がかかるし時間がかかるが、そこを我慢してさせていきましょう。
- ・やり方を教えるとできる。「失敗しても良い」という気持ちでさせましょう。
- ・「言ってもやらないのは危険信号」 障がいの可能性も…?!早目の気づきが大きな成長へ

#### 4. メディアとのつきあい方

2歳までのテレビ視聴は害悪

授乳中、食事中のテレビ・ビデオ視聴は禁止（食事を大切にしない家庭は崩壊まっしぐら）

すべてのメディアへ接触する時間を制限 ゲームは1日30分まで

子ども部屋には、テレビ、ビデオ、パーソナルコンピューターを置かない

自然に親しむ・土に触れる遊びを親子で楽しみましょう

- ・「大人しくさせておくためにテレビやビデオを見せる」という考え方は危険です。
- ・時間を決めて。内容を検討して見せたいものをみせる。
- ・自然と親しむ。裸足で歩く。

#### 5. 学習が進むために

正しいおはしの持ち方を教えましょう

毎日、子どもの勉強を見てあげましょう...お父さん、お母さんの手作り教材が一番  
一緒に勉強する習慣をつけておきましょう

学年×20分（入学前は1日10分でよい・絵本の読み聞かせがいいでしょう）

ひらがなの読み：5歳0か月で90%の子どもができる

ひらがなの書き：6歳0か月で90%以上の子どもができる

- ・無理はさせず、怒らないで。怒られるとやる気をなくしてしまう。
- ・箸の持ち方はそのまま鉛筆の持ち方につながる  
正しく持てないと...筆圧がつかない、形が書けない、マス目の中に入るように書けない

**「してみせて 言ってきかせて させてみる」 米沢藩主 上杉鷹山  
失敗は成功の母**

忙しい日常生活の中で「待つ」ことは親も我慢が必要なことです。ストレスも増えそうです。でも自分のものとして身に付けるには、下手でも遅くても失敗を重ねながら、自分でやらなければいつまでもできない事になります。直ぐに結果・成果を求めるのではなく、愛情で包み支えながら、やる気を応援してあげることが大切なのだと思いました。かわいい子ども達のために共にがんばっていきましょう!!